

# 授業レポート(その二)

## 子どもは「はづかしさ」をどうとらえているか

粕谷典子

### 学習指導案

- 一、日時 昭和四十八年九月二十七日(木) 第三校時
- 二、第三学年一組、男二十三名、女十九名、計四十二名
- 三、授業形態・全体授業
- 四、学習領域 感情・構え
- 五、教材 雨と太陽(東書三ノ上)
- 六、単元設定の理由

この期の子どもの特徴の一つとして、自我意識がめばえ、自分と他人との関係について考えはじめ、他人に見られているということ意識するようになってきていることがあげられる。

特に、他人に見られているという意識は、潜在的には、はづかしさをつきまとわせている。それは、表題の、「雨と太陽」に象徴されるように、つり、そして、やがてはれるものである。しかもそれは、たあいしない原因によって起り、そして何かを契機としてはれる。また、はづかしさは人により、そのまま外にあらわれるとは限らないが、内外ともに何らかの意識的なかたち——「構え」をつくるものである。それらを含めて、

はづかしさというものは、人間の成長の段階でそれぞれそれなりの構造を持っていると考えられる。

しかし、子どもたちの持っているはづかしさは、きわめて観念的であり、「はづかしい」と感じたら、そこからなかなか脱け出しにくい。

このことは、はづかしいということについて、子どもたちの感情の癒着状態と考えることができよう。

このような状態の子どもたちの変革を求めるには、感情のとらわれをほぐし、更に感情を分化させることが必要である。しかも、それは、教師の指示によって概念的に求められることではなくて、子どもたち自身の感情の分析に待たなければならぬし、それへの気づきが喚起されなければならない。

この教材で、はづかしいという感情状態をときほぐし、子どもたちの今日的状態のはづかしさから、脱却をはかり、構えを転換させることをねらいとして、単元を設定した。

### 七、目標

○ はづかしさというこころの仕組み

○ はづかしさの「構え」の転換  
八、指導計画(九時間 扱い)

○ 通読、空白部分をうめ、二者択一をする。(二時間)  
○ 空白部分、択一部分の言葉を関連づけさせる。

(一時間) …… 本時  
○ はづかしさが崩壊していく過程を考える。(三時間)  
○ はづかしさが崩壊したあとを考える。(二時間)  
○ まとめ・確認(一時間)

### 九、本時目標

○ 空白部分、択一部分の言葉を関連づけさせ、はづかしさのあらわれ方について考えさせる。

### 十、本時の展開(別記)

### 十一、評価

○ 子どもたちが、感情をどれほどことば化するか、そのためにどのような知恵を働かせるか。

○ 人による、はづかしさの構えのちがいを、とらえることができたかどうか。

十、本時の展開

| 学習内容                                     | 指導内容  | 留意点   | 備考                    | 時間                                       |
|--|---|---|-----------------------|--|
| 1. 学習のねらいの確認                             | ○ はずかしさのあらわれ方について考えさせること。<br>(言葉の関連づけ)  | ○ 学習の姿勢・集中をはかる。                                 |                       | 5分                                       |
| 2. 通読する。                                 | ○ 指名読みさせる。  | ○ ねらいに留意しながら聞くことを喚起する。                          |                       |  |
| 3. 本時でとりあげる部分を教師が範読する。                   |   |   |                       |  |
| 4. 空白部分、折一部分の言葉をながめる。                    | ○ 黒板に、子どもたちが書いた言葉のいくつかのパターンを示す模造紙をはり、それを見せる。  | ○ それぞれのパターンの特徴をつかむように、させる。<br>○ パターンは、三／四に制限する。 | ○ もぞう紙に子どもたちの答を書いておく。 | 30分<br>(それ<br>それ<br>いつ<br>7、<br>ず8分<br>) |
| 5. それぞれのパターンについて、一つずつ見ていき、おかしいと思う点を話しあう。 | ○ はずかしさのあらわれが、空白部分と折一部分で、矛盾なく、つながっているか、考えさせる。<br>○ 子どもたちの質疑応答を中心として、進める。<br>○ はずかしさのあらわれ方がどの様になっているかを考えさせる。 | ○ 空白部分と折一部分を関連づけさせる。<br>○ それぞれのポイントをしぼってやる。     |                       |  |
| 6. 子どもたちの到達点を、教師が確認する。                   |   | ○ 子どもたちの発言によって整頓する。                             |                       | 5分                                       |
| 7. 今後の課題を知らせる。                           |   |   |                       |  |

資料 雨と太陽

あるばんのことでした。文助の家に、おとうさんの友だちが四人もいっしょにたずねて来ました。ところが、いざ帰るという時になって、急に雨がふ

つてきました。文助のおかあさんは、げんかんにおいてあったかさを、みんな、お客さんにかけてあげました。次の日の朝になりました。雨は、まだやんでいませんでした。

「ぼくのかさがありませんよ。」

と、文助がいました。

「こまったわね。あなたのかさも、ゆうべ、お客さんにかけてあげてしまったのよ。きょうは、文助さん、おかあさんのでがまんしてね。」

と、おかあさんはいいました。

さあ、たいへんです。おかあさんのこうもりときたら、むらさき色で、太い短いえの先に、赤い大きな玉がついているのですから。

でも、しかたがありません。文助は、とうとう、おかあさんの、きれいな、むらさき色のこうもりをさして出かけました。赤い玉の所を [ ] ように、両手にぎりしました。そして、なるべく顔も [ ] ようにくふうし、 [ ] 顔つきをして、 [ ]

歩いて行きました。

女の子が二、三人、何かいいながら、後ろからやってくるようです。

文助には、こうもりというのが、こんなに [ ] 感じられた

ことは、はじめてです。文助は、はずかしくてはばかりして、たまらなくなりました。そこで [ ]

すると、その時、文助の目の前に、ぱっと、まっかなこうもりがあらわれました。

「おや。」

と、思わず立ち止まって見ると、まっかなこうもりの下から、久太のまら顔が出ました。

「おはよう、文助君。あはははは……。君は、むらさきかい。」

と、久太は、 [ ] 元気のいい [ ] 声で [ ] 元気な [ ]

いいました。

「ああ、そうなんだよ。ゆうべ、おとうさんの友だちが、四人も来たのさ。で、うちのかさ、みんな持って行ってしまったんだ。だから、きょうは、ぼく、おかあさんのをさして来たんだよ。」

文助は、だれかに何かいわれたら、すぐにいてやろう、だれかに何かいわれても、いわないでおこうと思っていたことを、「すらすら」と久太にいつしませんでした。

「そうかい。ぼくのはね、ねえさんのなんだよ。けさ中学のにいさんがね、ぼくのこうもり、持って行ってしまったんだ。それで、しかたがないから、ぼく、ねえさんのをかりて来たんだよ。ほら、ここの所に、ひよこがついているんだぜ。黄いろいひよこがさ。」

「ぼくのは、赤い玉さ。」

「なるほど。あはははは……。」

と、久太は、「ゆかいそうに」わらいました。

ふたりは、ならんで歩いて行きました。

学校の近くへ来ると、子どもたちが、だんだん、おぜいになってきました。お寺の前まで来た時、向こうの横町からやってきた光一が、ふたりを見つけて、「どうしたんだい、君たちのこうもりは。あはははと、いきなりわらいました。」

「とてもはずかしいんだよ。ねえさんのでね。」

「ぼくのは、おかあさんのさ。」

「へえ……。自分のは、どうしたんだい。」

「にいさんがさして行ったんだよ。」

「ぼくのは、お客さんにかしたんだ。」

「それじゃ、しかたがないなあ。でも、君たちの顔はすぐきれいだぞ。久太君はまったく、文助君はむらさきだ。」

学校に着きました。すると、かさ立ての所でごちゃごちゃしていた、おおぜいの友だちが、すぐに、ふたりのこうもりを見つけて、わらいだしました。けれども、光一がふたりの代わりにつつ明してくれたので、だれも、ばかにする者はありませんでした。

帰るころになって、雨はやみました。

終わりのベルが鳴りました。かさ立ての所まで出て来た文助は、

「おい、久太君。こうもり、わすれるなよ。」

と、声でいいました。

「わかってるよ。」

と、久太は手をふりました。

ふたりは、きれいな色のこうもりをかかえて、学校

## 「雨と太陽」の授業を卒えて

「おまえでも、はずかしいということがわかるのか。」などと茶化するという言葉を耳にすることがある。この言葉の裏には、「はずかしさ」を捉えることのできる人間の方が、それのできない人間よりも、一つ上の段階にいるという気持が見られる。

たしかに、自我意識がめばえ、自分と他人との関係についても考えるようになれば、はずかしさを有することはできないと言えるであろう。それはまた、自分と他人、あるいは、自分とそれを見ている自分、というように、自分と何者かの二者関係を意識すると

を出しました。雨あがりの秋空は、とても美しくすみわたり、太陽が明るくかがやいていました。

「おい、文助君。こうもりをかわかしながら帰ろうや。」

と、久太がいました。

「うん。それがいいや。」

と、文助は答えました。

ふたりは、日の当たる通りを歩いて行きました。

曲がりかどまで来ると、久太は、

「じゃあ、さようなら」

と、まっかなこうもりの下から、右手を上げました。

「さようなら。また、あしたね。」

と、文助が元気よくいいました。

文助は、ひとりになりました。けれども、かさ

に、文助の顔は、ますますむらさき色にかがやきました。

## 子どもは「はずかしさ」を

### どうとらえているか

ころには、はずかしさがつきまといてくるということでもある。

ここで、気をつけなければならないのは、はずかしさを捉えたからといって、はずかしさという感情において、大人と子供とは、果して同じであると言えるかどうかということである。

はずかしさは、たあい原因によって、つとり、はれたりする。また、はずかしさは態度にあらわれるものであるが、内心がそのまま外にあらわれるとは限らず、その人の「構え」を伴うものである。そし

そのような、はずかしさの構造を、子供たちはどの程度把握しているのでしょうか。言いかえるなら、はずかしさということについて子供たちの感情は、どのくらい分化しているのでしょうか。

このことを、研究授業の前段階として調査した資料にもとづき（ここでは授業内容には触れず）調査結果に關してのみ考察する。

○調査形式と方法……………別紙の資料の空白をうめ  
二者択一をする。

○調査目的……「子供たちは、  
はるかしさをどう  
とらえているのか」を知る。

○調査結果と考察  
資料は三枚あるのだが、はずかしさをどう捉えているかを見るのに、最初の二枚で十分であると思われる

ので、表は二枚分だけにした。(別記)

これを見て、まず言えることは、子供達は一度思いこんだら、それをなかなかずすことができないということである。子供達のはずかしさというのは、いかに観念的であるかがわかる。

それぞれの問題について見てみると、最初のは、**は**ずかしさの原因となっているものをかくそうとする行為は、比較的とらえやすいようである。ところが、次の「できるだけまじめな」というように、**は**ずかしいと感じていることを表に出さないようにしようとする行為は、とらえられていない。「**は**ずかしそうな」とか「**い**やな」とか、**は**ずかしさをそのまま表に出している**と**捉えている子供が多い。構えが固いと言うべきであらうか。

そのことは、次の答にも見られる。「大急ぎで」というように、はずかしさから、早くのがれようとする気持よりも、「のそのそ」「ゆっくり」というように「はずかしい・いやだ」という気持にどっぷりつかっ

たまま、そこからぬけ出すことができずにいる。

「きつと、かさのことを笑っているにちがいないありません。」のところは、彼我関係をあらわしている。そして、彼我関係こそ、はずかしさの構造の中心をなすものだと思われる。その大切な部分をつかんでいる子供が30%ぐらいであることは、子供達にとって、はずかしさの構造を把握することが、いかに難しいことであるかということを意味していると思われる。

その次の、「大きく・重く・やっかいに」というのは、子供達には大変難しいところだと思う。「大きく・重く・やっかいに」というのは、かさのことであるが、それと同時に、その子供の感情でもある。感情を計量することは、子供達には難しく、その計量感情をかさを通してあらわすというのは、ますます難しいことであろう。正答数は一番少ない。しかし、正答をいれている子供もいるということは嬉しいことである。「やっかいに」とか、さらに、一人だけではあるが「におもにも」という言葉が入っているということは、注目

|      | 正答率<br>人数 | 29/41          | 32/41   | (10) 8/41       | 15/41               | 10/41 (+5)                                 | 9/41               | 10/41                               | 30/41 | 28/41 | 33/41 | 38/41 |
|------|-----------|----------------|---------|-----------------|---------------------|--|--------------------|-------------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 正答   |           | (見えないう<br>かゝす) | (見えないう) | できるだけまじめな       | 大急ぎで                | 笑ってかさのことき<br>笑っているのだからいありません               | 大きく、重く、<br>やっかいに   | いっそのこと、かさをつめて<br>かけたそうか             |       |       |       |       |
| 亀 甲  | ○         | 1              | 2       | 3               | 4                   | 5  | 6                  | 7                                   | 1     | 2     | 3     | 4     |
| 桐 生  | ○         |                |         | はずかしそうなのを聞き取らない | かくすようにちぢめるように       | はずかしそうに笑っていました<br>女房は何か言われなければいいな<br>△と思った | いやではないかといたたまけついていた | ? むらさき色のかきをかくしてはいないでいます             | ○     | ○     | ○     | ○     |
| 伊藤 殿 | ○         |                |         | 下を見えないしよんぼりしている | そのそののそりのそり          | へんな気持ち                                     | へんなことが(?)          | ? はずかしくなりました                        | ○     | ×     | ○     | ○     |
| 有 賀  | ふるえる      | ○              |         | しよんぼりな          |                     |  |                    | ? かゝす                               | ○     | ×     | ○     | ○     |
| ながしま | つつむ       | ○              |         |                 |                     |  |                    |                                     | ○     | ×     | ○     | ○     |
| 納 木  | ○         |                |         |                 | ○ 走るようにびくびくしながらとほとほ | みつかたらいやだなと思つた<br>どうしようかな、かけて学校に行つておもうかな    | ○ おもくてじやまにやなことへんに  |                                     | ○     | ○     | ○     | ○     |
| 原 島  | ○         |                |         |                 |                     |  |                    |                                     | ○     | ○     | ○     | ○     |
| 安 田  | ○         |                |         | いやな             |                     |  |                    | はやくいっちゃおう                           | ○     | ×     | ○     | ○     |
| 野 原  | ○         |                |         |                 |                     |  |                    | 文助がはずかしいな<br>誰か男の子が女の子のかきをやってこないとかな | ○     | ×     | ○     | ○     |
| 菅 原  | いやな       | ○              |         | はずかしそうなの        | しらんぷりで              | すぐにはずかしうて                                  | はずかしいことは           |                                     | ○     | ?     |       |       |



すべきであろう。

一枚目最後の問題である、はずかしさの原因となっているものの放棄もまた、正答が少ない。追いこまれた気持、はずかしさがどどんつって、最高の状態になっているということが、つかめていないようである。

一枚目全体の結果としては、「はずかしい」という言葉がはいっているところが、圧倒的に多い。はずかしいと感じたら、その感情をそのまま表にだすという、一つの構えしかとれない子供が多いということであろう。

二枚目の問題については、択一問題であったためか、一枚目の問題よりも、ずっと正解が多かった。

最初の問題で、「ふだんとはちがう・元気のない」の方を選んでしまった子供は、久太を文助と同じように見てしまったのであろう。ここで興味があるのは、この記号になっている子供である。これは、一つの答となる文を、上の部分と下の部分に分けて考えているものである。そして、注目したいのは、「ふだんとはちがう、元気な」と答えていることである。これは、明らかに、「よそおう」「ふりをする」ということをつかまえている。正解ではないにしても、「よそおう」という、はずかしさの構えの一つをとらえている点で、おおいに注目したいところである。

次の、「だれかに何かいわれたら、すぐにいってやろう」をまちがっている子供は、はずかしさを、ひたすらかくすことだけに、気持がいつているのであると思われる。

次の問題の誤答も、同じことが言える。

最後の問題が一番正解が多い。これは、子供達が、正解を選ぶ力があつたのに加えて、私の問題文が良く

なかつた事も、その原因になっているのではないかと  
思われる。択一文として、「ゆかいそうに」に対して  
「つまらなそうに」というのは不適当であつたと思う。  
全体を通して、正解だったのは三名である。一問だけ  
誤答であり、しかも正解に近いと思われる答をいれ  
ている子供は、四・五名いる。この子供は、はずかし  
さの構造がつかめていと言えらるであらう。しかし、  
この他にも、正解に近づきつつあると思われる答を入  
れている子供が何人かいる。たとえば、最初の問題の  
「かくす」のところに「つつむ」という答をいれてい  
る子供などは、かくそうとする気持がひそんでいるこ  
とを、うかがうことができる。

表にした部分は、はずかしさが、どどんつって  
いくところ、そして、構えの違いをとらえているかど  
うかを見たものであつて、感情処理ということは問題  
としていない。ところが一人だけではあるが、すでに  
この問題で、感情処理の動きを見せている子供がいる。  
(小高。)  
「かくす」「かくす」「はずかしいような」  
「大急ぎで」「はずかしそうにあるいていた」「はず  
かしそうに」と答えてきて、その次が「文助は思いき  
って勇気をだそう」という答になっている。「はずか  
しそうに」から「……勇気を出そう」という答になる  
間に激しい動きがあると見るべきであらうか。この飛  
躍は、どう解釈すればよいのか。

はずかしさに直接関係があるかどうかはわからない  
が、「ちゃう」という言葉が気になる。これは、はず  
かしさの原因となっているものの放棄のところで見ら  
れる言葉である。「はやく行っちゃおう」「こんなか  
さなかすてちゃえ」というものである。この部分で  
「行っちゃおう」「すてちゃえ」と答えられない  
ものを感じてしまう。「……ちゃう」というのは一種

の方言であるとする向きもあるようであるが、少なく  
とも、はずかしさの放棄における「ちゃう」は、別の  
意味を持つと思われる。そこには、時間的なもの、思  
いきりの良さなどを感じとることができる。「ちゃう」  
としか表現できない逼迫感が見られる。

最後に、子供達のはずかしさのとらえ方を一言でい  
うならば、それはまだまだ観念的であるが、構造をつ  
かみかけて動いている状態であると言ふことができる  
であらう。

感情構造を分析し、自分自身の感情を見つめていく  
ことが、子供達には必要とされる。概念として得るの  
ではなく、自分自身の感情を分化させ深化させる事、  
自分の感情を分析することが大切である。そして、教  
師は、それへの気づきを喚起し、感情構造のときはぐ  
しに手をかさなければならぬ。そうするためには、  
教師自身が感情構造をしっかり把握していることが必  
要とされる。子供達の感情の発達を願うならば、教師  
自身、感情の分化、深化をはからなければならぬとい  
うことであらう。心がけたいことであると思う。

ここでは、はずかしさの感情処理の方には触れなかつたが、それも考えていかなければならないことだと思ふ。はずかしさはつづいていくが、どこかではれるものである。その時の感情処理のしかたによって、子供達の性格を知ることができるかもしれないと思う。子供達の実態を知るためには、欠くことができないものであらう。「雨と太陽」という教材では、はずかしさがつづいていくところ、「構え」を見るのに適当であると考へて、そちらを重視しなかつたが、感情処理を見る方法を考へて、子供達の実態を、もっとよく見てみたいと思ふ。